

抗リウマチ薬を飲まず松本医院を受診。

初診から4カ月間の経過報告。

「松本先生との出会いに感謝（リウマチ手記）」

匿名希望 64歳

2016年4月10日

私は64歳です。3年前の平成25年の5月、朝、手にこわばりを感じる様になりましたが、いつのまにか治っていたので、そのまま何も気にせず過ごしておりました。暫くして、手の指、手首、肘が急に痛くなつては、2～3日で治り、又他の場所が痛くなることを繰り返していました。内心、リウマチではないかと不安に思っていました。一番辛く感じたのは、自転車で買い物に行った時でした。急に肩が痛くなり、少しでも動かそうとするものなら激痛が走り、荷物も自転車のハンドルも持てず、子供に迎えに来てもらうことが2～3度ありました。でも、2～3日すれば痛みが取れるので、リウマチではないかと思いつつもお医者様にも診てもらわず、そのまま過ごしていました。10月頃になると段々と痛みがなくなってきました。

27年の夏頃、急に夜中に激痛が走り、その頃から右手がしびれていましたので、病院に行きました。手根管症候群の診断を受けました。以前からも症状はありましたが、この様な手全体がしびれて激痛が走るというのは初めてのことでした。整形の先生から手術を勧められましたが、手術はせず、接骨院での治療で痛みは取れてきましたが、しびれは指全体に残って違和感がずっと残っていました。それから右手の人差し指の第2関節が腫れているのに気が付き、リウマチ専門の病院へ重い腰を上げて診て頂きに行き、血の検査とエコー検査をした結果、「初期のリウマチですから治療を始めましょう。」と言われたのが、12月5日でした。「リウマトレックスを服用することになるでしょう。」と言われたので、「薬を飲むかどうか暫く考えさせて頂いてもよろしいでしょうか？」と聞くと、「今すぐどうということはないので、よく考えて1ヶ月後に来てください。でも早く治療を開始した方が良いですよ。10年後には、手が曲がっていますよ。」と言われて、ショックでこれからどうしたら良いのかという不安で病院を出ました。治して頂けて、そしてもっと納得できる治療を探そうと決心しました。次の日から、スマホで探し始めて、松本医院の存在を知りました。松本先生の理論を何度も読み返して、リウマチは自己免疫を攻撃する様

な病気でなく治る病気という箇所を読んだ時、松本先生の治療を受けたいと思い始めていました。漢方薬を服用するというのも、嬉しい事でした。早速、12月の中旬の仕事が休みの時に行かせて頂きました。松本医院に入った時、漢方薬の匂いがして、松本先生にお会いした時、率直にいろんな事をお話して下さり、励まして下さり、何度も握手して必ず治すからと力強く言って頂きました。私は目の前が真っ暗になってどうしたら良いのか分からず辛い思いでしたが、トンネルの向こうに光が見えてきた様に感じました。必ず、この治療を受けて治していきたいと12月中旬から4月の中旬になりますが、松本先生のご指導のもと治すのは自分だよと言われたことを思い出しながら続けさせて頂いています。

私は幸いにも抗リウマチ薬も鎮痛剤も副腎皮質ホルモンも服用していませんでしたので、仕事も日常のことも何の変わりもなく生活させて頂いています。体のだるさ、熱っぽさ、疲労感、何をするのも億劫でやる気が出なかった私でしたが、治療を4ヶ月間続けてみて、だるさ、熱っぽさが取れ、横になる事も少なくなり、嬉しい事に、右手の手根管によるしびれが取れてきました。

2ヶ月目の検査では、まだヘルペスとの闘いだと言われていきますので、これからも治療を続けていきたいと思っています。

松本先生に出会えていなかったらと思うと、治療を受けてさせて頂いている事に感謝の心で一杯です。これから治るまでよろしくお願い致します。